

ユーモアで川柳らしく

基礎・基本を指導

三河青竜会 家族向け教室

中日新聞販売店などでつくる三河青竜会主催の「家族で楽しむ川柳教室」が十九日、西尾市文化会館で開かれ、家族連れら約三十人が参加し、川柳の基礎基本などを学んだ。

三河新報社が開催している第三回家族川柳コンテストとの連動企画。中日新聞販売店の夏休み特別企画として開催された。講師を迎えたのは、西尾市柳会の下村修身会長と会員の加藤八重さん。

親はなし」や「色男金と力はなかりけり」など、格言のように言われていくが、江戸時代に詠まれた川柳だった。和歌や俳句に比べて飛び込みやすい。鉛筆と紙があつて、日本語ができればすぐにできる」と川柳の歴史や手軽さを紹介した。

川柳を詠むための心構えとして「いつも鉛筆と紙を用意しておく」と良い。後から書くこととして「孝行のしたい時に思いついたらときにメモをしておくのが良い」と述べた上で、柔軟な考え方を身につける準備運動となる「かくれんぼ川柳」などを紹介した。

また、川柳は五・七・五の十七音で詠むもので、音数の数え方をしっかり身につける必要があるとして、「字余りなどはあるが、できたら真ん中の七だけは七文字にするように」とアドバイスした。

「川柳は文語体ではなく口語体で、常用漢字や新仮名づかいを用いる。最近、俳句と川柳の区別がなくなってきた」と



多くの家族連れが参加した教室

が、ユーモアがあると川柳らしくなる。言葉をつくさん知っていると作りやすい。語彙(ごい)を増やしてほしい。言葉の調べる時には「できれば、前後の言葉も調べられる国語辞典が良い」と話すなど、参加者に川柳の基礎知識を分かりやすく解説した。

三河新報社では九月十五日まで、第三回家族川柳コンテストの作品を募集している。



西尾署は十七日、運転免許証の自主返納を促し、高齢者の交通事故抑止を図ろうと、西尾市のコミュニティバス「六万石くるりんバス」の体験ツアーを行った。

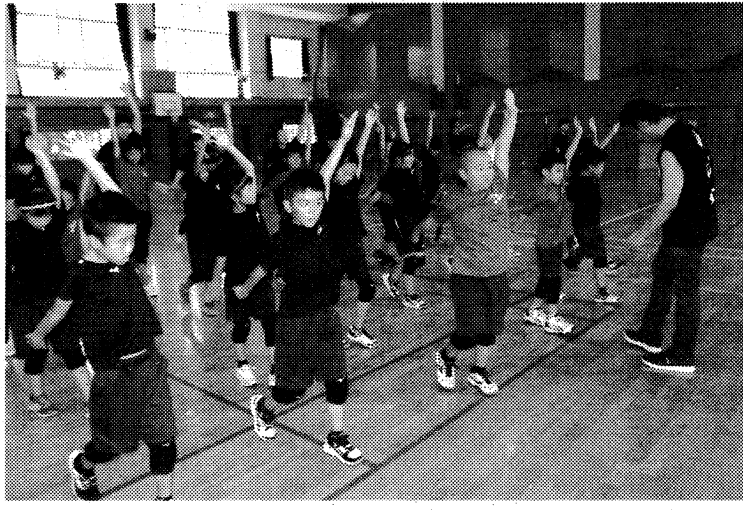
県内では高齢者の交通事故が依然として多発していることから、同署ではさらなる交通安全を、西尾市と連携して行っている。

今回着目したのが「六万石くるりんバス」で、高齢者にその利便性を体感してもらうことで、同署としては高齢者の運転免許証自主返納を促進して交通事故抑止に、また、西尾市としてはバスの知名度アップや利用促進に役立てばとツアーを企画した。

この日は、福地南部小学校区の四町内会の老人会代表五人(六十九〜七十九歳)が参加。同市福地ふれあいセンターで、西尾市地域支援協働課の職員から乗り方やルール、乗り継ぎ方法などに

ついて説明を受けた。その後、五人中四人が「自動車ばかりでコミュニティバスに乗ったことがない」という参加者は、憩の農園の北を東西に走る県道西尾幸田線にある、西廻り線のバス停「憩の農園」から乗車。西尾駅まで行き、西尾駅から再び憩の農園まで乗車した。

同市のコミュニティバス「六万石くるりんバス」(六万石くるりんバス・いっちゃんバス)では、運転免許証を自主返納して一年未満の七十五歳以上の市民を対象に、所定の申請手続きを経たうえで一定期間運賃を無料にする支援を行っている。有効期限は、無料になる乗車証が交付された日から三年が経過した日の属する年度末まで。



ストレッチを行う子どもたち

体幹鍛えるストレッチ

ドッジボールが講座 山尾病院医師から学ぶ

西尾市のドッジボールチーム(中央D.D.D.)は十七日、「けがをしないためのストレッチ」を学んだ。

三浦代表は「ドッジボールではひざやひじ、肩を痛めることが多いので、体幹を鍛える動的ストレッチをお願いしたい」と話していた。

のストレッチ講座を市立西尾小学校で開いた。山尾病院(同市桜木町)の整形外科の元山基浩医師を講師に迎えた。

この日は、小学生のメンバー三十人と保護者ら二十人が参加。元山医師と同病院リハビリテーション科主任の杉浦陽子さんから七人を講師に迎え、足の後ろを伸ばしたり、肩の関節を柔らかくしたりするストレッチを学んだ。

免許返納も考えて 高齢者へ体験ツアー 西尾署

泌尿器科・内科・外科・麻酔科
リハビリテーション科・小児科

医療法人
神原内科クリニック

西尾市米津町里225
(米津大橋西700m)
☎56-8558

給食 弁当 仕出し

株式会社 **梅岡**

西尾市丁田町五助55番地
☎56-5678(代)

しゃぶしゃぶ会席
大小御宴会・御商談・出張パーティー 企画立案等に

和風レストラン
名代 **とんかつ 錦**

ウエイトレス募集!

本店 西尾市塩町(四有り) ☎56-7788(代)
西尾ゴルフクラブ店 西尾市一色町 ☎72-3180
吉良カントリークラブ店 西尾市吉良町 ☎32-3260